

■インタビュー 代表取締役社長 築野富美様

Q1. 築野グループ株式会社様の沿革や会社概要についてお話しください。

私の父が昭和22年に創業いたしました。

父はフィリピンで終戦を迎え、捕虜収容所にいた時に、高野山から来られた教誨師の方に「絶対日本に帰れるから、帰ったら日本の国のために働きなさい」とものすごく励まされたそうです。「お大師さまが助けに来てくれた」とその言葉を支えに、父は無事に釈放されて帰ってきました。

戦後、貧困から「みんなと一緒に食を大事に考えられる仕事をしていこう」という思いから、ます精麦業を始めました。そこでご縁をいただいたのがお米屋さんです。そこにある米ぬかを使ったら、いろいろなことがこれから展開できるのではないか、また、お米の世界に入ってほしいという声を多くいただき、米ぬか由来の油の製造を主な事業としてスタートしました。

米ぬかは機能性成分の宝庫です。ファインケミカルの分野やオレオケミカルの分野にも事業が発展すると父は確信しました。「日本のお米を大事に使う事業になる」と考え、一つひとつチャレンジし続けました。築野食品工業から事業を立ち上げ、次に築野ライスファインケミカルズ。原料や製品の輸送のために、運送事業をスタートしました。それから、油脂化学製品の展開として、築野オレオケミカルズを設立しました。

こうして80年、米ぬか一筋で「社会のためになる仕事」を続けてこられたのは、いろんな人に助けてもらったおかげです。お大師さまの「活かせいのち」の言葉どおり、「活かせ米ぬか」という思いで、自分を救ってくれたお大師さまに感謝し、「米ぬかの宝物探し事業」をみんなとやっているという感じです。

13年前に父が94歳で亡くなりましたが、「まださらに、もっともっとこれからだ」という思いをみんなで約束し、今日があります。

Q2. 創業以来、事業をどのように広げてこられたのでしょうか。特に大きな転機があれば教えてください。

米ぬかを活かした事業は技術も開発力も必要です。何より従業員がどれだけ夢を感じて愛してくれるかということが、ものすごく重要です。自分たちの夢を一生懸命に粘り強くやってきたっていうのは、会社の力になっていると思います。

米ぬかの機能性成分はいろいろあります。その中で中心的なものが「お米のビタミンB」といわれるイノシトールやIP6(イノシトールヘキサポスベイト)です。世界で注目されてきた時、「国際シンポジウムをしたらどうか」とアメリカの先生方や日本の研究者の方々、国の人たち、取引先などから、提案と励ましの言葉をいただきました。

それを形にしたいと思って、一生懸命チャレンジし国際シンポジウムを開催した結果、さらに米の機能性が注目されるようになってきたというのが、大きな転機になったと感じています。

Q3. 米ぬかやお米といった国産資源へのこだわりやその価値について、社長のお考えを教えてください。

お米って日本を象徴する大事な作物です。感謝の気持ちを持ち、大事に使わせていただくことで、次々と開発ができる、仲間も増え、ものすごくいい世界が築けていけるなと思っています。これからもこの姿勢は貫いていきたいと思っています。

Q4. グループ内の各会社はどのように連携しているのですか。

築野食品工業がスタートで、原料や製品の輸送を一手に受けてくれる築野運輸があります。ファインケミカルの事業にも挑戦し築野ライスファインケミカルズができました。イノシトールを中心に、研究者が宝物探しをするような事業を築野ライスファインケミカルズで実現しています。また「工業用の脂肪酸」というのをこめ油の製造の時に同時にスタートさせていたので、それが発展しどんどん大きくなり、築野オレオケミカルズになりました。食品製造で発生する副産物を重要な資源として捉え、工業用の部分として活用しています。各社それぞれの事業がみんなで助け合い、役割分担を決め、目標を決め、一生懸命に取り組んでおります。

Q5. :従業員や地域の人たちと接する中で、印象に残った出来事や嬉しかったエピソードはありますか。

ここは田舎ですので、みんなで助け合う心というのがあります。私も子ども二人を地域のおじいちゃん・おばあちゃんをはじめ皆さんに助けていただき今日まで来ました。

子どもたちが本を読んだりすることはすごく大事だと考え、毎年図書券をクリスマスや子どもの日にプレゼントをさせてもらっています。その幼稚園や保育所のみんなから「ありがとう」と言葉をいただきました。とても感激し感謝しそこから毎年続いております。

また、九度山に農地があります。芋掘り大会をしたら喜ぶのではないかと思いサツマイモを植えました。それに子どもたちをご招待しみんなで芋掘り大会をずっとやっているのですが、今はもう30歳を超えて幹部として働いている方が「小さい頃の築野食品の芋ほり大会が忘れられなかった。絶対ここへ入り頑張りたいと思った。」と入社後に教えてくれたことがあり、その時も感激しました。

Q6. 社員の方々がやりがいを持って長く働ける職場づくりのために、特に心掛けていることは何ですか。

何も知らないところからスタートしたような事業だからこそ、教育・訓練・研究がすごく大事になります。ですので、間違いない人事の評価制度をずっと作りたいと思っていました。

具体的には一人ひとりの努力や成果、頑張ってきていることを上司がしっかりと記録に残し、それを会社全体が評価するという仕組みです。心からその人たちの努力を分かろうと思い、幹部がヒアリングし点数をつけ、給与評価や賞与の評価につながります。それが制度としてしっかりとできているということが社員のやりがいにもつながると感じています。

また、TPM活動というのがあります。みんなで「この部分をこう改善したらこんな利益が生まれる」といった提案や改善、情報共有をし、それらを開発や提案営業につなげるといったコミュニケーションを行っています。さらに携帯電話を1人1台ずつ持っていますので、すぐに自分たちの口で伝えて、紙面以外にも迅速に意思疎通できる工夫をしてきたと思います。

国際規格のISOの認証取得などもしてきましたが、その要求事項に答えることができたのはみんなの力があったからこそで組織力がなかったら応えられなかつたと思っています。みんなで一つ一つこなしていることが大事な取り組みだと思っています。

Q7. ご自身が入社されてから、思い出に残る経験やプロジェクトはありますか。

国際シンポジウムです。開催の時にはお米の力を信じ、その答えを見つけるために、放浪の旅のように国内や海外に回りました。お米の将来に絶対夢があると思いながらも、やっぱり苦しいなと苦しみや不安を持ちながら準備を進めました。その上に開催できた国際シンポジウムっていうのは、ものすごく印象に残っています。

Q8. 女性経営者として特に意識していること、また働いてみて気づいたことがあれば教えてください。

私が入社した頃は、女性は家事・育児・子どもを育てることに力を入れ、あまり前に出ないほうが多いという、そういう空気が少しありました。それでも気になることは改善してきました。その結果、それが力となり、周囲の男性の中にも一緒に取り組んでくれる方が出てきてくれました。女性社員は努力すればするほど、周りの男性社員も必死に頑張ってくれると私は信じていて、それを女性社員に伝えてきました。女性の力が、周囲の力を引き出すという環境を作れたかなと感じています。

Q9. グループとして今注力している新しい事業や、今後挑戦していきたい分野など、今後の展望についてお聞かせください。

米ぬか一筋で取り組み、それが一つずつ商品になり、医薬品会社、化粧品会社、サプリメントメーカー、化学業界などで評価され、採用されてきました。それが実際の事業にもなり、支えになっていきます。

今ある素材で考えた時に、「自分たち自身でやっていきたいもの」というのがありました。米ぬかの機能性成分は、美に貢献するので私たちは化粧品ブランド「inaho」を展開し、みんな市場開拓を進めています。

また「お米の油と米粉でスイーツを作ることは絶対にできるはずだ」と従業員から声が上り、「come×come」というグルテンフリーのスイーツ・パンのブランドも立ち上げました。

この会社のもっている、新たなものを作っていくということ、そしてその商品をお届けすること、健康と安全安心なものづくりをするということに力を入れているので、「inaho」と「come×come」の事業をさらに掘り下げ、より多くの方にその価値をわかっていただけたらいいなと思っています。

Q10. 学生や若い人たちに向けて、築野グループで働く魅力、また“こんな人に来てほしい”というメッセージをお願いします。

父は「活かせ命」で高野山の教えや修行を大切にし、「勤勉、儉約、忍耐、これ我が社の宝」っていう社是を定めました。素直な心や謙虚な心の上に、粘り強い人がいいなと思います。どんなに苦しくても助けてくれる人がいます。助けてもらったら感謝をして、次は自分の経験で誰かを助けられる、そんなことが素直にできる人。本当に心から物を愛し、人を愛し、事業に参加してくれて、みんなと仲良く美しい世界を米の夢でいっぱいにできたらいいなと思っているので、同じ夢を持ってくれる人が、学生さんの中から出てきたら嬉しいです。

Q11. 社員の方のメンタルヘルスケアなどの実施方法をご紹介いただけますでしょうか。

人事評価制度の運用の中で、全員にヒアリングを行う機会があります。また携帯電話を持っており、もし問題が起こってもすぐに連絡が取れるので、ほっとかない環境づくりができたかなと思います。メンタルな的な心の悩みを持っている人がいたらちゃんと聞く、チームで支えるという形ができていると思います。

さらに総務部がありまして、社員のさまざまなケアを担っており、悩みを持った社員が訪ねてきたり、必ずきちんと時間をとって話を聞いて、ケアに携わってくれています。

Q12. 社員の方の意見の活用方法についてご紹介ください。

意見を吸い上げて、事業に反映できなければ、会社は成り立ちません。人の力で成り立っている会社だからこそ、社員の意見をさまざまな場面で吸い上げ、それをどんどん活用することが大切です。提案された意見を紙面として形に残したり、会社全体の方針にも反映したりしています。このような道をずっと積み重ねてきました。社員の意見は大切に受け止め、よく考えた上で取り上げています。

Q13. SDGs推進に向けた取り組みで、心掛けていることをお聞かせください。

SDGs の塊みたいな事業をしていると自負しています。そのため、自分たちが何の項目にこれは貢献するのかは頭でも考えているし、もちろん実践でも果たしております。後で努力目標を作るのはなく、今やっていること自体が SDGs につながっておりますので、自然に努力をしていく、これに尽きます。

築野 様 本日はありがとうございました。ありがとうございました。